



2011年3月 (シャミナード年)

「お言葉どおり、この身になりますように。」(ルカ1・38)

「ヨゼフは天使が命じたとおりにした。」(マタイ1・24)

ギョーム・ヨゼフ・シャミナードとともに、ヨゼフとマリアのように、今日の神の呼びかけに“ハイ”と応えましょう。



マドレーヌ聖堂のお告げの像

マリアとヨゼフの模範に倣い、ギョーム・ヨゼフ・シャミナードはその時代の歴史的状況の中で“ハイ”と応えられた。いくつかの出来事をふりかえってみましょう。

1. 教会再生の必要

教会はトリエント公会議(1545～1563)が求めた改革の長い時代を生きてきた。ギョーム・ヨゼフ・シャミナードは、ミュシダンにあるサン・シャル司祭共同体に入会する。この共同体は、聖カロロ・ボロメオによって(フランスでは聖ヴィンセンシオ・ア・パウロによって)有名になった再生宣教者の運動に加盟していた。サン・シャル共同体は、教育を通して、社会の刷新を目指していた。

この共同体の会則は、次のように明言している。

1条： 青少年の教育は、魂の救いを実現するための第一にして、中心的な手段のひとつである。

5条： そのためには、なにごとも、おろそかにしてはならない。

10条： 教育課程に“内的生活”をそれとなく加えること。

(ヴェリエー師, Jalons I, 71/102)

2. 革命=宗教的秩序の消滅と迫害

シャミナード師は、この時期、“地下にもぐり”、信徒の信仰生活の強化に努めた。一般信徒に手広く働きかけることができなかつたので、“使徒たち”のグループ作りに努めた。

3. サラゴサへの追放

全ての使徒的活動と責任ある仕事ができなくなった今、シャミナード師はスペインのキリス

ト者の中で、追放されていたフランス人司教・司祭たちのグループとともに祈りと熟考に専念した。数人の司教・司祭の書き物は、この熟考が徹底したものであったことを明示している。これは、その時はまだ不明であったが、将来の新たな使命への内的・霊的準備の時であった。それは、また、マリアを強く体験する時であり、マリア会創立の決定的インスピレーションの時でもあった。ド・ラムルス嬢はスペインでのこの頃からシャミナードに従っていくことになる。

4. 非キリスト教化されたフランスへの帰国

キリスト者を再構築するため、また、宗教的無関心と戦うため、聖母青年会（コングレガシオン）の創立。

☆ 教育による福音宣教、グループでの信仰教育、愛の奉仕活動。

☆ 過去においてそうであったように、今日も福音を厳密に生きることができることを世に証する。

青年男女のコングレガシオン、成人男女のコングレガシオン、子供たちの準備グループ、“アップロバニスト”、志願者。

☆ シャミナード師の宣教ヴィジョンにおけるひとつの大切な原則。

“あらゆる年齢、すべての男女、すべての社会的階層の人々に呼びかけること”

コングレガニストは、あらゆる社会的、宣教的活動に従事する。一部のコングレガニストは、最初から学校教育に献身した。このことは、福音宣教の新たなニーズにもはや応えることができなくなっていた小教区にとって代わるものである。

マリアは、これらすべての宣教活動の鼓吹者であり、保護者である。

マリアは、これらすべての異端、特に“無関心の異端”と戦い、わたしたちをご自分の子、イエスの姿に形作られる。

5. 1808年 = コングレガシオンの消滅

このできごとは一責任者の軽率な言動の結果であった。このことは又、秘かに準備された熱心な人々のグループ、“世に在る修道身分”を設立する機会となる。種々の試みの後、青年たちが私誓願を宣立し、より強い信仰者になることを可能にする。このようにして、コングレガシオンの将来の責任者と、やがて誕生する二つの修道会の会員の温床が組織された。

6. 1815年 = コングレガシオンの再興

種々の固有な方法による計画の遂行と再編成（男女、年齢、社会階層のカテゴリー、信徒または私誓願宣立者のカテゴリー）コングレガシオンの大発展。

7. 修道生活への最初の希望者

汚れなきマリア修道女会の創立（1816）、マリア会の創立（1817）

コングレガシオンの活動を支え、増大させるための“死なない人”として活動は、特別なトラブルもなく、また信徒コングレガニストによってすでに準備されていた宣教活動に従事することで、順調に始まった。教育、特に学校教育は、とりわけ修道士会員

にとって、最初の活動のひとつとなった。目標は、“矯正するよりも予防すること”。一般教育は、特に小学校と中学校でなされ、それから技術と職業教育がなされた。

サン・ルミで最初の高等師範学校を引き受けたことは、師範学校網の中で、行われる教師養成を通して、フランス全体の福音宣教の展望を開くものとなった。しかし、残念ながら、この計画は、最初の段階で中止することになる。

8. 福音宣教をするために絶えず適応すること。

創立者はその生涯と活動を通して、神の呼び掛けに注意深い人でした。ふりかかってくる障害は、その都度、新たな適応と創意工夫の機会となる。

<シャミナード師のこぼ>

シャミナード師はいつも神の招きに応じて行動された。師は自分自身で計画をたてようとは決してしなかった。このことは、師が教皇に提出した創立に関する説明全体の中にはっきりと表れているが、特に1839年に起草されたマリア会会憲の認可を要請する教皇への手紙（シャミナード師の手紙 n. 1076）の中で、確認することができます。

ボルドー 1838年9月16日 教皇グレゴリオ16世宛、ローマ

（シャミナード師の手紙 第4巻 n. 1076）

（マリアニスト・シリーズ 8－（4）より）

**マリアの娘の会会憲及びマリア会会憲作成者が当二つの会を
創立の際に抱いた計画についての概説。**

聖下、…不信の者たち、現代の合理主義者たち、並びにプロテスタントが啓示による優れた建物を崩壊させようと、信じ難い工作をめぐらしているのを見まして以来長い間、私がどれほど苦しんで参りましたか、子としてなんの飾り気もなく聖下にお話し申し上げたことでありましょう。顧みますれば、この悪の奔流に対して強力な一つの防波堤を築くため、天は、今世紀の初め、私を促して聖座に教皇派遣宣教師の勅許状を申請させ、至る所に信仰の神的松明を再び灯し、驚いた世界のあちこちにあらゆる年齢、あらゆる身分の強力な男女カトリック教徒の集団を示すよう計られました。これらの教徒は、特別な結社をなして、私たちの聖なる宗教の教義と道徳を謙虚に、世間体を気にせず、全く純粋に実践する者たちであります。…その時から、一方では男子の、他方では女子の熱心な聖母会がフランスの幾つかの町に組織されました。そして間もなく修道生活を選ぶ男女がかなり増え、教会に裨益するところ甚だ大なるものがありました。

しかし、この手段は、賢明に活用されますときには、確かに非常に優れたものではありませんでした。フランスにおいて権力者により助長された哲学とプロテスタント教会は世論と学校を掌握し、衆人、特に青少年に自由思想を広めることに躍起になっておりまし

た。この思想の放縦は、思想と不可分の心の放縦にいや増して有害なものであります。したがって、それより生じるすべての悪の大きさを誰が想像できることであらう。聖下、私は新しい二つの修道会を創立しなければならないと神のみ前に考えました。一つは女子の他は男子の会であり、これらの男女はよい模範により、キリスト教は古くなった一つの制度ではなく、福音は1800年前と同様に現代でも通用するものであることを世に証しながら、多様な外観に隠れて有害な宣伝を行なう者に対抗して、より多くの学校を設立し、全課程とあらゆる目的の授業を、特に最も多く、最も見捨てられた人々の階級のために開設するものであります。

聖下、以上が、20年前、マリア会並びにマリアの娘の会の創立の際に、み摂理が私にお示しになられた計画の次第であります。

…マリア会には三種のものが含まれております。第一種は勉学をした修道士で、その主な使命は、授業によって私たちの天来の宗教に対する知識と愛と実践を広めるものであり、第二種は労務修士で、一般の若い人々に実業学校を開設することを目的とし、それによって若い人々を世俗の悪風に染まらないように守りあるいは説得し、またキリスト教道徳の実践によって勤労を聖化することを学ばせます。第三種は司祭で、これは他の二つのものの魂であり、塩であります。そして人員にゆとりがあるようになれば、社会に出て、種々の司祭職を果たすことになりませんが、マリア会とマリアの娘の会の指導に当たります。

女子の会はマリアの娘の会と呼ばれております。1816年にアジャン市に創立されました。…当会は、その力に応じて、マリア会と同じ目的のため働いております。したがって、教育や女性にふさわしい仕事に従事し、聖母会の面倒を見、慈善事業に携わっている次第であります。

聖下、マリア会とマリアの娘の会の会憲は…今世紀の広大な必要にできるかぎり適応させたものです。

この両修道会は固有の名称として尊きマリアの名をいただきました。全世界にマリアを知らせ、マリアをたたえさせ、マリアを愛させることができると念願致しております。なにゆえかと申しますと・主イエス・キリストが御自分のおん母に現今はとりわけ教会の支えとなる栄光を取っておかれたと心から確信しているからです。

聖下、以上、わが身の不肖を顧みず、聖下の貴重なお時間を奪い、自らは拙い道具に過ぎない事業について舌足らずのことを申し上げて参りました。なにとぞその失礼はお見逃しになり、ただマリアの聖なるみ名にのみお目をお留めください。そのみ名の御保護の下にこそ私は聖下の玉座の前に参上致しました。マリアこそ私の栄光のすべて、力のすべてなのであります。

マリア会総長、
G.J. シャミナード

＜保護者、模範、聖ヨゼフ＞

「司教様は、1805年3月7日、聖ヨゼフの祝日をコングレガシオンの第2の保護者としてくださいました。」（文書と言説 1-1 文書 59-n. 172）

「ミサをささげたばかりのところでは、極めて高度の超自然的賢慮を備えられた聖ヨゼフにすべてをゆだねました。人々も物事もゆだねました。…これはそのお取り次ぎによって、あなたがもはや自分自身で、自分自身のために行動せず、神のみ業をひたすら神のため、また神がお望みの方法に従ってのみ求めるように願ってです。私たちはもちろんマリアの息子で、それが私たちの誇り、私たちの慰めではありますけれども、また私たちは聖ヨゼフの養子です。だからこそ私たちは聖人に大きな信頼を寄せるのです。」（シャミナード師の手紙 第3巻 n. 674 - 1833年3月19日 ララン師に）

祝うべき月日	3月9日	四旬節の開始	: 使命によりよく応えるための回心
	19日		: 聖ヨゼフの“ハイ”
	25日		: マリアの“ハイ”